

まなびの部屋

邑久高校開放講座

地域住民が現役高校生に交じって高校で授業を受けることができる学校開放講座を開講します。

開放する講座は、岡山県立邑久高等学校3年生の選択授業で行っている2講座で、今年は、数学の講座も



思い思いに作品の制作に取り組む受講生の皆さん(絵画の授業)

開講します。

一般の人にも気軽に楽しめる内容ですので、皆さんも高校生たちと机を並べてともに学んでみてはいかがでしょうか？

▽開放講座

〔絵画〕・「数学基礎」

▽期間 4～12月

▽時間 45分授業を週2回

▽募集人数 各講座5人(希望者多数の場合は、選考

または抽選により決定)

▽対象 瀬戸内市在住の人

▽受講料 無料(教材費などは、実費徴収)

▽申込方法

受講を希望する人は、3

月19日(金)までに、中央

公民館で仮申し込みをして

ください。

4月に入り、授業日程などの詳細が決まり次第連絡します。受講が可能な場合は、その後、正式な申し込みをお願いします。

■問い合わせ先

中央公民館

☎0869-22-3761

岡山県立博物館特別陳列

岡山県立博物館では、平成21年度の平常展として、「虫明焼」の特別陳列を開催します。

岡山藩筆頭家老、伊木家の御庭窯として始まったといわれる虫明焼は、釉薬を掛けた京焼系の流れをくむ焼物で、茶道具としても人氣を得ています。その灰釉

今月のおすすめ本



うさぎばんこのおおかみくん
問所ひさこ…作 仁科幸子…絵
人形劇の中のおおかみくんは、いつもいつもあこちゃんを怖がらせているばかり。あこちゃんたちと遊びたいのに、みんなはおおかみくんを見ると逃げていく。そんなある日、みんながおかみくんをやっつけようと言ひ出して…。おおかみくんは、どうなるでしょうか？ 読み聞かせに最適な本です。

の持つおとなしく飽きのこ

ない色調も、魅力の一つと

いえるでしょう。虫明焼の

優美な世界をぜひご堪能く

ださい。

▽開催期間 3月18日(木)

～4月18日(日)

▽開館時間 午前9時30分

～午後5時(4月は、午

前9時～午後6時)

▽会場 岡山県立博物館

▽入館料 大人200円

中学生以下の人、65歳以

上の人は無料

※特別展期間中は料金が変

わります。

▽休館日 毎週月曜日(た

だし、祝日の場合は翌日)

■問い合わせ先

岡山県立博物館

☎086-272-1149

Books



病気にしらずの体をつくる 石原式冷え取り健康法 石原結實…著

人間は寒さに弱い動物なの!? 「体から冷えを取る事が健康への近道」という医学博士・石原結實さんが、冷え取り健康法を解説しています。体を温める食材や食べ方、かんたんエクササイズの方法など日常生活で今すぐ実践できる情報が満載の一冊です。

今月のおすすめ本は、市内各図書館・室で借りられます。

■貸し出し・問い合わせ先
中央公民館図書室 0869-22-3761
長船町公民館図書室 0869-26-2501
HP <http://lib.city.setouchi.lg.jp/>
※牛窓図書館は、移転準備のため閉館中です。

伝統を守り受け継がれる虫明焼

岡山県立博物館 特別陳列より



巻の六十二

3月の中旬から4月の中旬にかけて、岡山県立博物館において虫明焼が特別陳列されます(前ページ参照)。

展示される作品は、清風与平作「菊絵菓子鉢」をはじめ、山根四山作「びわ鉢」、横山香宝作「落雁菓子鉢」、真葛長造作の水指や花入、森香洲作の茶碗などです。

虫明焼は、昭和63年に岡山県知事指定郷土伝統的工芸品となっています。国指定伝統的工芸品の備前焼を除くと、焼物では県内で唯一伝統的工芸品に指定されています。

この場合の「伝統的」とは「100年以上の歴史を

有し、今日まで継続している」ことを意味しています。

岡山県内の焼物

岡山県内の焼物にはどのようなものがあるのでしょうか？

『岡山の焼物』(岡山文庫)という本には、短期間だけのものも含めると、県内七十数カ所の窯場が紹介されています。

古い時代の焼物のうち、主なものでは、備前焼(備前市)、亀山焼(倉敷市)、勝間田焼(美作市)があります。これらはいずれも平安時代の終わりが(12世紀ごろ)から始められてい

ますが、このうち現在まで続いているのは備前焼だけです。亀山焼は南北朝時代ぐらい、勝間田焼は鎌倉時代の終わりがごろぐらいまで、つまりだいたい14世紀ごろまで続いていたとみられています。

江戸時代や明治時代には県内にもたくさんさんの窯がありました。なかでも、大原焼(里庄町)は、明治時代には備前焼の生産額を上回るほど盛況でしたが、昭和60年ごろ廃窯になったようです。

現在まで続いている焼物としては、酒津焼(倉敷市)があります。酒津焼は明治2(1869)年に始まり、現在までほぼ途切れずに続けられています。はじめは鶴形山(たづま)のふもとで焼

かれ、阿知窯と呼ばれていました。途中から酒津に移り、現在では窯元が大きく2カ所に分かれて焼かれています。

虫明焼の場合

このように、焼物の窯の歴史にはどこでも栄枯盛衰がありますが、虫明焼の場合はどうでしょうか？

虫明焼にもこれまで何度か廃絶の危機がありました。が、その都度、関係者の努力で復興してきました。

これまで何度かあった危機のうち、昭和初期の危機を救ったのが、岡本英山でした。岡本英山は、明治14年、岡山県英田郡江見村(現美作市作東町)の生まれで、



岡本英山作
上:「椿絵茶碗」、下:「一合徳利」